



世界の法定通貨と同価値となる暗号通貨を普及させるプロジェクト
日本発ステーブルコイン

White Paper

Dec.11.2019

xcoin limited
(Japan)

Exchangers limited
(Japan)

Exchangers HK limited
(Hong Kong)

私たちは、政府や中央銀行などの管理を受けない自由な暗号資産「xcoin」を世界的に普及させることにより、世界の金融の中核を担うことを目指します。

それにより、私たちは、金融・証券・不動産など、あらゆる分野における先駆者となり、アジア発の世界的ユニコーン企業となることを期します。

このホワイトペーパーを目にした方は、この壮大な物語の始まりを目の当たりにした「歴史の証言者」となるかもしれません。

1.序文

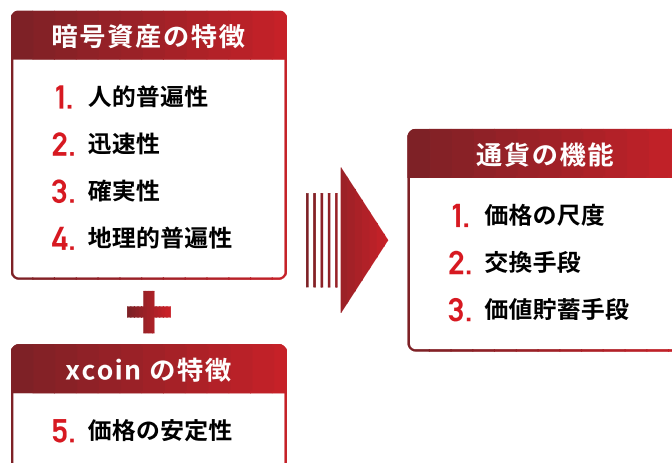
2009年にビットコインの運用が開始されてから、暗号資産の普及は急速に進んだ。

たしかに、ビットコインは仮想空間においては各種コインとの交換に用いられているため、通貨としての役割を一部果たしている。だが、暗号資産は価格変動が大きく、たとえばビットコインは金や主要通貨と比較してボラティリティが5倍程度高いと指摘されている。実際のところ、仮想空間に大きな投機資金が流入してそれが滞留しているが、現実の金融市場で暗号資産は「通貨」として機能しているとはいえない。

そもそも、通貨の機能は①価値の尺度、②交換手段、③価値貯蔵手段の三点があるが、価格変動が大きい暗号資産は、通貨としてのこれらの基本的な機能を果たすことができない。もし暗号資産が本当に「通貨」としての機能を果たせるとしたら、価格が安定することが必要不可欠である。

暗号資産の特徴は、①だれでも(人的普遍性)、②瞬時に(迅速性)、③確実に(確実性)、④どこにでも(地理的普遍性)送金できることであるが、価格変動が大きいいため、それらの四つの利点を活用した通貨としては、全く機能してこなかった。

この四つの特徴に「⑤価格の安定性」が加わることにより、暗号資産は、初めて「通貨」としての機能を担うことができるようになる。それにより、暗号資産は、普遍的で迅速で確実に決済できる自由な通貨となり得るのである。この五つの性質を兼ね備えた暗号資産を「暗号通貨」と呼ぶことにしたい。そこで、私たちは、価格が変動しない暗号通貨xcoinを発行することで、暗号資産に革命を起こすことを目指す。



xcoinは①だれでも、②瞬時に、③確実に、④どこにでも送金できるといった、ビットコインやイーサリアムと同様の特性を持つだけでなく、⑤価格の安定をも兼ね備えた暗号通貨である。そのためxcoinは①価値の尺度、②交換手段、③価値貯蔵手段の三つの機能を兼ね備えた、本物の通貨として機能することができる。これこそ、ビットコインが目指した暗号資産のあるべき姿といえよう。

しかし、このような法定通貨と同価値になるステーブルコインを発行することは、xcoinの物語の第一幕に過ぎない。

我々は、貴金属、商品先物、株式、土地、競走馬をはじめ、あらゆる財産的価値のあるものを暗号資産に置き替えていき、一つのウォレットで世界の金融資産を保管・移転・交換できるサービスを提供することで、金融界のAmazonを目指す。

次ページからその具体的計画について述べていきたい。

2. プロジェクト要約

特定の通貨と常に同価値となる暗号通貨を「ステーブルコイン」という。私たちは世界で通用する全ての通貨（156通貨）（※1）に対応するステーブルコイン「xcoin」156通貨を発行する。各種xcoinは、専用ウォレット「xcoin wallet」で保管、送信、受信、交換が可能である。それにより、世界中の通貨に対応した暗号通貨「xcoin」を、世界に普及させていくことを目的とする。

各種xcoinは店舗と専用ウォレットで購入・売却（払戻）することができる。

日本国内に10店、香港に1店を構える外貨両替所「Exchangers」にて現金とxcoinを交換することができるほか、専用ウォレット「xcoin wallet」で各種xcoinとETHを交換することができる。また、専用ウォレットで申し込むことにより銀行振込によりxcoinを購入・売却（払戻）、あるいは郵送にて外貨を受け取ることができる（※2）。

株式会社エクスコイン（日本企業）がxcoinを発行し、国際版xcoin walletはExchangers HK limited（香港法人）が、また日本版xcoin wallet（日本法令対応版）は株式会社エクスチェンジャーズ（日本法人）が、それぞれiOS版、Android版、PC版を提供する。

xcoinの発行は日本の法令に従って行われ、またウォレットの提供はそれぞれ日本および香港の法令に従って行われる。

通貨建てのステーブルコインは、日本の金融庁の方針により、資金決済法に従い「暗号資産」ではなく「自家型前払式支払手段」（いわゆる「電子マネー」）として取り扱うことになっているため、当社はその方針に従ってxcoinを発行する。

（※1）紙幣を発行している世界の公定通貨は159種あるが、そこから北朝鮮ウォンとイランリヤルとベネズエラボリバルを除いたのが156通貨。エクスコイン社は除外した3通貨は取り扱わない。また、硬貨のみを発行する公定通貨は除外している。
（※2）ただし、サービスの内容とその開始時期は地域によって異なる。特に日本は法規制が強いいため、他国と同等のサービスを提供するのに時間を要する。詳細は「ロードマップ」参照のこと。

xcoin currencyは100%担保されたステーブルコイン

当社が発行する暗号通貨xcoin currencyは、各種法定通貨と同価値となる。各種xcoin currencyは、いつでも現金化することができ、また現物通貨と交換することが可能である。各種xcoin currencyは100%の担保率によって担保されるため、価値が減退することはない。

そして、各種xcoin currencyは暗号通貨であるため、ウォレットを通じて、世界のどこにいる誰にでも簡単、迅速、安価に移転することができる。

エクスコイン社（日本法人）は、日本の資金決済法に基づき、発行残高の半額を日本国の法務局に供託するほか、残額は現物として分別管理する。担保の状況を明確にするため、ウェブサイト担保の状況を表示し、定期的に監査を受け、その結果を公表する。

➤ xcoin currencyの概要

エクスコイン社(日本法人)は、世界の法定通貨156種に対応するxcoin currency 156種を発行する。同社は、販売の対価として受けた代金を全額、その通貨建にて保管する。常に発行額と同額の預金を保持することにより、xcoin currencyの価値の裏付けが担保される。ただし、インフレ率が高い通貨等は、その通貨建ではなく、同社が定める通貨バスケットにより保管することがある。

同社当社は顧客の求めに応じ、xcoin currencyを随時買戻す。また、その際の価格は売却価格と同じである。それによりxcoin currencyの価格は常に法定通貨と同価値となる。

エクスコイン社は両替業を営む日本法人で、各種xcoin currencyは、同社の商品である外国通貨と交換することができる自家型前払支払手段(いわゆる「電子マネー」)として発行される。

各種xcoin currencyと現物通貨との交換、各種xcoin currency同士の交換、xcoin currencyとETHの交換はExchangers HK limited(香港法人)とエクステンジャーズ社(日本法人)が独占的に担う。

xcoin currency 仕様

- | 名 称 | xcoins(総称)
- | 個別名称 | XUSD、XEUR、XJPY、XGBP、XCHF、XAUD、XCAD、XCNY、XHKD、XSGD・・・(計156通貨)
- | 個別俗称 | X-Dollar、X-Euro、X-Yen、X-Pound、X-Swiss Franc・・・
- | Code | XUSD、XEUR、XJPY、XGBP、XCHF・・・
- | 発行上限と発行目標額 | 無し(顧客の求めに応じて随時発行)
- | 発行元 | 株式会社エクスコイン(日本法人)
- | 特 徴 | 常に法定通貨と同価値となる。随時現金化できる。随時現物通貨と交換できる。
- | システム | 標準ERC20仕様
- | ネットワークモデル | イーサリアム・ブロックチェーン(プライベート・ネットワーク)
- | 承認アルゴリズム | 組織内承認
- | ブロック生成間隔 | 約4秒
- | ブロックサイズ | 可変
- | 購入者に対する制限 | 無し
- | 発行手数料・買戻手数料 | 当面無料
- | 発行価額 | 現物通貨と同額(例えば1JPY=1XJPY、1USD=1XUSD)
- | 買戻価額 | 現物通貨と同額(例えば1JPY=1XJPY、1USD=1XUSD)

【要 点】

① xcoinの発行

エクスコイン社(日本法人)は、顧客の求めに応じて、xcoin currencyを随時発行する。xcoin currencyは日本の法令に従って日本企業が自家型前払式支払手段として発行するものである。ただし、xcoin currencyの顧客への譲り渡しは、Exchangers HK ltd.(香港企業)とエクスチェンジャーズ社(日本法人)が行う。譲り渡しの方法は、日本と香港のエクスチェンジャーズの店舗にて対面で行うほか、専用ウォレット「xcoin wallet」により非対面で行う(但し、ETHとxcoin currencyの交換はExchangers HK ltd.のみが行う)。



② 現物通貨の保管

エクスコイン社は、各種xcoin currencyの発行残高と同額の「現物」を保管することにより、各種xcoin currencyの価値を担保する(但し、日本法令に従って発行残高の半額を日本国法務局に供託し、残額は分別して管理する)。

③ xcoinの償却

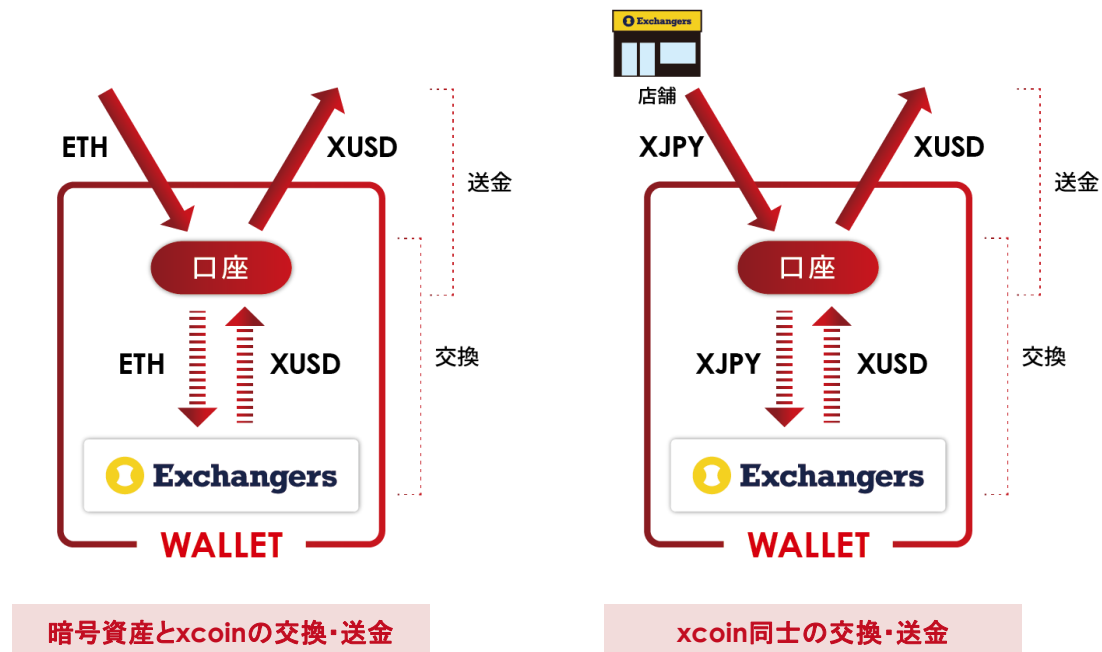
エクスコイン社は、顧客の求めに応じて、xcoin currencyを買戻す(払戻す)(※3)。ただし、顧客からのxcoin currencyの買戻しは、Exchangers HK ltd.とエクスチェンジャーズ社が行う。現金の払い出しは、日本と香港のエクスチェンジャーズの店舗にて実施する。またETHの払い出しは専用ウォレット「xcoin wallet」を通じてExchangers HK ltd.が行う。エクスコイン社は、xcoin currencyを買戻すと同時に償却する。

日本店舗での200万円以上の払い出し、及び香港店舗ではの2万香港ドル以上の払い出しには、法令に従って取引時確認を実施する。



④ xcoinの交換と送金

エクスチェンジャーズ香港は、専用ウォレット「xcoin wallet」を通じて、顧客の求めに応じて、各種xcoin currency 同士、あるいはxcoin currencyとETHの交換を実施する。また、顧客の求めに応じて、各種xcoin currencyの送金を行う(※4)。



(※3) Exchangers HK ltd.は、MSO (Money Service Operation)ライセンスに基づき、香港店舗にてxcoin currencyと現金の交換を実施するほか、専用ウォレットを通じてxcoin同士、あるいはETHとxcoinの交換を実施する。他方、エクスチェンジャーズ社(日本法人)が前払式支払手段であるxcoin currencyを買い戻して日本円を払い出すためには、日本において「資金移動業」の登録を済ませる必要があると見られる。同社は現在、資金移動業の登録を申請していて、登録後に日本円の払い戻し業務を実施する予定である。ただし、外国通貨の払い出しに関しては当初から実施する。払い出し金額の上限については、香港店舗では無制限であり、日本店舗においては外国通貨は無制限、また日本円は一回当たり100万円を上限とする。また、一定額以上の取引については、香港法と日本法に基づき、取引時確認を実施する。

(※4) エクスチェンジャーズ香港は、MSOライセンスに基づきxcoin walletを通じて交換と送金を実施する。xcoin currencyの種類や在庫の状況によっては現物との交換ができない場合がある。通貨の払い出しは在庫を上限に実施し、また在庫不足の際は補充するなどにより可能な限り応じる。

xcoin currency 一覧

欧州

EURユーロ、GBP英ポンド、RUBロシアルーブル、CHFスイスフラン、SEKスウェーデンクローナ、PLNポーランドズロチ、NOKノルウェークローネ、DKKデンマーククローネ、CZKチェココルナ、RONルーマニアレウ、HUFハンガリーフォリント、UAHウクライナフリブニャ、BGNブルガリアレブ、HRKクロアチアクナ、BYNベラルーシルーブル、RSDセルビアディナール、ISKアイスランドクローナ、GELグルジアラリ、BAMボスニアヘルツェゴビナマラカ、ALLアルバニアレク、MKDマケドニアディナール、AZNアゼルバイジャンマナト、AMDアルメニアドラム、MDLモルドバレウ、SBPスコットランドポンド、GGPガンジーポンド、GIPジブラルタルポンド、JEPジャージーポンド、IMPマン島ポンド、 - フェロークローネ

アジア

JPY日本円、CNY中国元、KRW韓国ウォン、IDRインドネシアルピア、TWD台湾ドル、THBタイバーツ、HKD香港ドル、MYRマレーシアリンギット、SGDシンガポールドル、PHPフィリピンペソ、VNDベトナムドン、MMKミャンマーチャット、MOPマカオパタカ、KHRカンボジアリエル、LAKラオスキープ、BNDブルネイドル、MNTモンゴルトゥグルグ、INRインドルピー、PKRパキスタンルピー、BDTバングラデシュタカ、KZTカザフスタンテンゲ、LKRスリランカルピー、NPRネパールルピー、MVRモルジブルフィア、KPW北朝鮮ウォン、UZSウズベキスタンスム、TMTトルクメニスタンマナト、AFNアフガニスタンアフガニ、TJSタジキスタンソモニ、KGSキルギスソム、BTNブータンニュルタム

オセアニア

AUDオーストラリアドル、NZDニュージーランドドル、XPFパシフィックフラン、PGKパプアニューギニアキナ、FJDフィジードル、SBDソロモン諸島ドル、WSTサモアタラ、VUVバヌアツバツ、TOPTンガバアンガ、TVDツバルドル

中近東

TRYトルコリラ、SARサウジアラビアリヤル、AED UAEディルハム、EGPエジプトポンド、ILSイスラエルシェケル、QARカタールリヤル、KWDクウェートディナール、OMRオマーンリアル、LBPレバノンポンド、JODヨルダンディナール、BHDバーレーンディナール、IRRイランリアル、IQDイラクディナール、SYPシリアポンド、YERイエメンリアル

アメリカ大陸

USD米ドル、CADカナダドル、BRLブラジルリアル、MXNメキシコペソ、ARSアルゼンチンペソ、COPコロンビアペソ、CLPチリペソ、PENペルーヌエボソル、DOPドミニカ共和国ペソ、GTQグアテマラケツツアル、CRCコスタリカコロン、UYUウルグアイペソ、BOBボリビアボリビアーノ、HNLホンジュラスレンピラ、TTDトリニダードドル、JMDジャマイカドル、XCD東カリブドル、BMDバミューダドル、BBDバルバドスドル、BZDベリーズドル、KYDケイマン諸島ドル、PABパナマバルボア、PYGパラグアイグアラニー、SVCエルサルバドルコロン、NIOニカラグアコルドバ、BSDバハマドル、HTGハイチグルード、SRDスリナムドル、GYDガイアナドル、CUCキューバ兌換ペソ、AWGアルバフロリン、ANGキュラソー／シント・マールテン アンティルギルダー、FKPフォークランド諸島ポンド、VEFベネズエラボリバルフェルテ

アフリカ

ZAR南アフリカランド、XAF中部アフリカCFAフラン、XOF西部アフリカCFAフラン、DZDアルジェリアディナール、MADモロッコディルハム、KESケニアシリング、TZSタンザニアシリング、TNDチュニジアディナール、BWPボツワナブラ、NADナミビアドル、MURモーリシャスルピー、SCRセーシェルルピー、GMDガンビアダラシ、NGNナイジェリアナイラ、AOAアンゴラクワンザ、SDGスーダンポンド、ETBエチオピアブル、GHSガーナセディ、LYDリビアディナール、UGXウガンダシリング、ZMWザンビアクワチャ、MZMモザンビークメティカル、MGAマダガスカルアリアリ、RWFルワンダフラン、CDFコンゴ民主共和国 コンゴ・フラン、GNFギニアフラン、MWKマラウィクワチャ、ERNエリトリアナクファ、MROモリタニアウギア、SLLシエラレオネレオン、SZLスワジランドリランゲニ、BIFブルンジフラン、SSP南スーダンポンド、LSLレソトロチ、LRDリベリアドル、DJFジブチフラン、CVEカーボベルデエスクード、KMFコモロフラン、STDサントメ・プリンシペドブラ、SHPセントヘレナポンド、SOSソマリアシリング

このホワイトペーパーは、xcoin currency 156種について述べるものであるが、今後、法定通貨以外の価値あるモノと同価値となる暗号資産xcoinを各種リリースする計画であるため、リリースを計画している各種xcoinを列挙する。各種xcoinの詳細については、各種xcoinのホワイトペーパーを参照されたい。

～参考～

● xcoin metal(貴金属ペッグ)

xcoinは法定通貨と同価値になる暗号通貨だけではなく、あらゆる価値のあるモノと同価値となる暗号資産を作り出していく。その一つが「貴金属」。そして、その代表が「金」である。

金と同価値となる暗号通貨をx-Goldと名付ける(コード=XGLD)。当社は、顧客の求めに応じて、金地金1gと1XGLDを常に交換する(金地金を取り扱う場合は、現物取扱い手数料を別途申し受ける)。

その他、x-Gold以外にも、下記の各種xcoin metalをリリースする予定である。

- x-Gold (XGLD) 金地金現物
- x-Platinum (XPLT) プラチナ地金現物
- x-Silver (XSLV) 銀地金現物
- x-Palladium (XPAL) パラジウム地金現物
- その他、金属現物、金属先物

同様に、商品先物、上場株式をはじめ、様々な価値のあるモノと同価値となる暗号資産を、次々と生み出し、発行していく予定である。

● xcoin commodity(商品先物ペッグ、CFD)

- x-Tokyo Barge Gasoline Future (XTBG) 東京バージガソリン先物CFD
- x-Tokyo Platts Dubai Crude Oil Future (XPDC) 東京プラッツドバイ原油先物CFD
- x-Tokyo Corn Future (XTCO) 東京とうもろこし先物CFD
- x-Tokyo Soy Future (XTSO) 東京一般大豆先物CFD
- x-Tokyo Red beans Future (XTRB) 東京小豆先物CFD
- x-Tokyo Raw sugar Future (XTRS) 東京粗糖先物CFD

● xcoin stock(上場株式ペッグ、CFD)

- x-Toyota (XT7203) トヨタ株式CFD
- x-NTT Docomo (XT9437) NTTドコモ株式CFD
- x-Google (XGOOGL) グーグル株式CFD
- x-Apple (XAAPL) アップル株式CFD

● xcoin ETF(上場投資信託ペッグ)

- x-SPDR Dow Jones Industrial Average ETF (XDIA) ダウ工業株平均
- x-Nikkei225 (XT1321) 日経225連動型上場投信
- x-Nikkei Inverse (XT1571) 日経平均インバース上場投信

● xcoin crypto (暗号通貨ペッグ)

- x-Bitcoin (XBTC)
- x-Ethereum (XETH)

また、下記のように、収益性のある権利を暗号資産として発行し、スマートコントラクトにより、自動的に収益を配当する。

不動産、航空機、特許等、一件当ごとに暗号資産を発行して受益権を割り当て、保有率に従って、毎月、XJPYやXUSD等で収益を配当する。

その他、下記のxcoinを計画している。

● xcoin realestate (不動産受益権)

● xcoin aircraft (航空機受益権)

● xcoin patent (特許受益権)

● xcoin racing horse (競馬馬受益権)

➤ xcoin walletの概要

当社は、各種xcoinを自由に交換できる専用ウォレット「国際版xcoin wallet」(158言語)と「日本版xcoin wallet(日本法令対応)」(日本語)をそれぞれAndroid版、iOS版、PC版を無料で提供する。

xcoin walletには、保管機能、送信機能、受信機能、交換機能、管理機能等を装備する。

顧客は、xcoin walletで各種主要暗号資産、各種xcoinを自由に交換することができるようになる。また収益性のあるxcoinを保有すると、その収益を毎月xcoin walletで受け取ることが可能となる。

xcoin wallet(Android版、iOS版、PC版)基本機能

- ・ 基軸通貨設定機能:基軸通貨を156種の公定通貨およびETHから選択することができる
- ・ 保管機能:各種暗号通貨を保管することができる
- ・ 送信機能:各種暗号通貨を送信することができる
- ・ 受信機能:各種暗号通貨を受信することができる
- ・ 交換機能:各種暗号通貨を相互に交換することができる
- ・ 交換レート表示機能:全通貨の全組み合わせの取引レートを表示する機能
- ・ アドレス帳機能:アドレスに任意に名前を付けて管理することができる
- ・ 履歴表示機能:送受信および交換の履歴を閲覧することができる
- ・ 合計額表示機能:ウォレット内の全通貨の時価の合計額を基軸通貨で表示する

今後実装を予定している機能

- ・ 言語選択機能:158言語から選択することができる
- ・ 入金機能:各種暗号通貨の購入代金を銀行振込により払い込むことができる
- ・ 出金機能:各種暗号通貨の売却代金を銀行振込により受け取ることができる
- ・ メッセージ機能:送金時にメッセージを添付することができる
- ・ スウィープ機能:スウィープ機能専用のQRコードを読み取ってxcoinを吸い上げることができる
- ・ 送金予約機能:予め日時を決めて送金を予約することができる
- ・ KYC機能:国際標準の本人確認をすることで機能を拡大させることができる

取扱通貨

xcoin currency(156種)、ETH、その他主要暗号資産、その他xcoin

ステータス制度

xcoin保有残高に応じてステータスを付与し、交換手数料等を優遇する
会員のステータスはxcoin walletに表示する

提供元

国際版:Exchangers HK Ltd.(香港法人)

日本版:エクステンジャーズ社(日本法人)(日本法令に従って機能が制限される)

3. 価格を安定させるメカニズム

xcoin currencyの最大の特徴は価格が安定していることである。これを実現するために、私たちは、発行残高と同額の現金を保有する。また、xcoin currencyを常に現物通貨と同額で買い戻すことにより、市場価格を安定させる。

現物通貨の保管

エクスコイン社はxcoin currencyの売却代金を全額、当該通貨建てで保管する。例えば1,000 XUSDを売却した際に顧客から受け取った1,000 USDは全額、ドル建てで保管する。同様に1,000 XJPYを売却した際に顧客から受け取った1,000 JPYは全額、円建てで保管する。

同社が保管する預金や資産の詳細を常にウェブサイトで公表し、また定期的に国際的に信頼されている会計事務所の監査を受けてその結果をウェブサイトで公表する。

法務局への供託

エクスコイン社は、日本の資金決済法に基づき、三月末と九月末の基準日に発行残高を算出し、その半額を法務局に供託する。

法務局に供託する通貨は日本円であるため、各種xcoin currencyの発行残高と保有する当該現物通貨が同額となるように、FXを用いて調整を図る。また、インフレ率の高い通貨等は同社が定める通貨バスケットで保管することがある。

現物通貨と同額での買い戻し

エクスコイン社は、各種xcoin currencyを、常に当該現物通貨と同額で買い戻す。このように、各種xcoinを、対応する法定通貨と同額で販売し、法定通貨と同額で買い戻すことにより、各種xcoinの市場価格を、その対応する法定通貨の価格に限りなく近づけることが可能になる。

これらのことを実行することにより、各種xcoinは価値の裏付けを持ち、いつでも、安定した価格で法定通貨と交換可能になる。同社が常に法定通貨と同価で売り渡し、また買い受けることにより、顧客は他から高く買い、あるいは安く売る必要がなくなる。そのため、xcoin currencyの価格は市場において、自ずと法定通貨の価格に限りなく近づく。これがxcoin currencyの価値を安定させるメカニズムである。

ただし、XUSDはUSDに対して価格が安定するが、USD以外、たとえばJPYに対しては為替により価格が変動する。その他の通貨についても同様である。

➤ 両替を受け付けた場合の処置

例えばXUSDからXJPYへの交換など、xcoin currency同士の交換を受け付けた場合は、各xcoinの発行額に変動が生じるため、各対応する法定通貨の保管高を調整する必要が生じる。XUSDを買い付けてXJPYを売却した場合は、USD建ての預金等をJPY建ての預金等に振り替える必要がある。エクスコイン社は、顧客の交換と逆の取引を実施し、各xcoin currencyの発行残高と同額の現物を保持する。このようにして、常に各xcoin currencyの発行額と、その対応する法定通貨の保有残高を一定に保つ。

4. 顧客が直面している問題

私たちは日常生活において頻繁に資金の決済を行っている。国や地域によってその様子は異なるが、現金、現金書留、銀行振込、クレジットカード、電子マネーといった支払い手段が利用されている。それぞれ一長一短あるため、ここで検討を加えたい。

➤ 現金による決済

現金の受け渡しには手数料がかからない。しかし、現金の場合は対面で受け渡す必要があるため、離れた場所から払い込むことができない。また、現金を郵便で送る方法を用いれば、遠隔地に現金を直接受け渡すことができる。しかし、現金を郵送するには経費はかき、保険を掛ける場合はさらに高額となる。また、海外で現金を使用する場合は、主に外貨両替を利用して現地通貨を用立てるが、相応の外貨両替手数料を負担しなければならない。また大きな金額を決済する場合、現金はかさばるため不向きとされる。100ドル相当の高額紙幣が無い国においては、現金の体積は膨れ上がるため、外国に搬送することは困難である。また、現金はその性質から、IoTのマイクロペイメントには利用できない。

➤ 銀行振込による決済

銀行振込はATMやネットを通じて簡単に振り込みができる利点がある。しかし、受け取り先が銀行口座を持っていないと送金手数料も生じる。また、原則として土日祝日は送金自体ができない。また、国際送金をする場合は、高額な送金手数料と外貨両替手数料が課されるだけでなく、送金から着金まで早くとも三日を要する。また、送金元だけでなく、送金先にも手数料が課される。銀行口座をハブとして使うことを嫌う国においては、銀行口座に入金する段階で、資金の出所を証明する必要があるため、煩雑な書類を用意しなければならない場合がある。また、小額の振込でも定額の振込手数料が生じるため、マイクロペイメントには適さない。

➤ クレジットカードによる決済

クレジットカードは普及が進み、世界で多くの人々が利用している。しかし、専用端末が必要であり、カードの取扱いをしていない店舗では用いることができないため、個人間のやり取りには使用できない。問題になるのは海外での使用である。普段と同じように使えるため一見便利に思えるが、VISAインターナショナルとMasterCardインターナショナルが外貨に交換するレートに、海外利用にかかる事務処理コストとして1.63%をプラスしたレートで換算される他、海外のATMでキャッシングする場合はさらにキャッシング手数料と支払い日までの金利が生じるため、大きな負担となる。また、店舗によっては利用下限を定めている場合があるほか、ランチでのカード支払いを受け付けない店もある。それにクレジットカードは極少額の利用ができないため、マイクロペイメントでは利用できない。

➤ 電子マネーによる決済

電子マネーも近年急速に普及が進んでいる。利用には手数料がかからないため、顧客にとって利用価値は高い。しかし、電子マネーはクレジットカード同様、店舗が加盟店登録を済ませないと利用できず、店舗は、電子マネーでの売り上げ分につき運営会社へ手数料を支払うことになるため（期間限定で手数料を無料にして

いる電子マネーはある)、現金客を歓迎する傾向が生じる。また、弱小店舗では、クレジットカード同様、手数料負担を嫌って、電子マネーを受け付けない店も多い。また、一部の電子マネーは個人間のやり取りが可能だが、オンラインで稼働しない電子マネーは個人間のやり取りができない。また、一部電子マネーはが特定の海外で利用可能なものがあるが、原則として海外では使用することができない。また、一部の電子マネーを除いてネット上での決済ができないためIoTのマイクロペイメントには利用できない。また、ネット上での決済が可能な電子マネーでも、極小額に対応していないため、やはりマイクロペイメントには利用できない。

➤ 暗号資産による決済

暗号資産は主に投資対象であって、決済手段として用いている人は僅かである。それは価格が不安定であることが原因である。暗号資産を用いた決済が行なわれる例として挙げられるのはICOの払い込みであるが、毎日、あるいは毎時間レートが変動するため、払い込む時期によって振込金額が変動し、顧客にとっては煩雑である。また暗号資産は価格の不安定さゆえに、暗号資産を保持することに、常に価格下落のリスクが伴う。

このように、決済用に暗号資産を利用すること自体がリスクであり、急な価格下落により予想より多額の支払いをしなくてはいいなくなる場合があるため、暗号資産は決済用にはほとんど用いられていない。

➤ xcoinが解決できること

これまで検討してきたように、各支払い手段には、それぞれ欠点があった。これらの、ほとんど全ての欠点を解消するのがxcoin currencyである。

xcoin currencyはブロック生成間隔が狭く、かつプライベートチェーンで稼働する暗号通貨であるため、イーサリアム決済の混雑状況に左右されることなく、世界のどの地域に送金するにも、安定的に約4秒以内で決済が完了する。現金を郵送し、あるいは国際送金で何日も待たされることもない。国境をまたいで巨額の現金を運ぶ必要もなくなる。

xcoin currencyは158カ国語に対応している無料のウォレットをダウンロードすることによって、誰でも手元に保管・送受信することが可能である。どんな法人や個人でも、デバイスとインターネット環境さえあれば、xcoin currencyを受け取ることができるため、銀行口座が不要なばかりか、クレジットカードや電子マネーのような専用端末がなくても決済できる。

xcoin currencyは送金手数料がどの決済手段よりも安く抑えられている(当面無料)。xcoinを用いることで、日常の決済における手数料負担が軽減することができるため、年間を通じて大きなお金を節約することができる。特に外国への送金にあたっては、従来の手数料が高額であったため、大幅なコスト削減が可能になる。また、xcoinは送金手数料が安価で、例えばXUSDの最小単位を0.000000000000000001 XUSDに設定しているため、IoTのマイクロペイメントにも利用可能である。

xcoin currencyは他の暗号資産と異なり、価格が安定しているため、例えばICOの払い込みでも、日時によって払い込み金額が変動することがない。そのため、xcoin currencyがICOの指定通貨となれば、ストレスなく利用することができるようになる。

このようにxcoin currencyは、前に指摘した他の支払い手段で顧客が直面している問題を、ことごとく解決することができるのである。

5. 企業が直面している問題

次に、前項と同様、資金決済において企業が直面している問題について検討していきたい。企業の資金決済には、顧客から代金を受け取る場合と、取引先に代金を支払う場合の両方がある。代金受取では、現金、銀行振込、クレジットカード、電子マネー、暗号資産等、また代金支払いでは現金と銀行振込が主に用いられている。それぞれ一長一短あるため、ここで検討を加えたい。

➤ 現金による決済

現金に関しては、企業は、顧客と同様の問題に直面しているほか、現金を取り扱うことによって生じる特有の問題がある。たとえば、受け渡す現金を事前に準備・保管しなくてはならず、小銭が不足すれば釣銭を渡すことができなくなるため、取引自体が行えなくなる危険がある。近年は、小銭へ交換する銀行の両替手数料が高くなる傾向があり、企業の現金取扱いによるコストが上がっている。また、顧客から偽造紙幣を掴まされる危険もあり、強盗に遭うリスクも拭えない。また、店頭での現金の受け渡しが多くなるほど、受け渡しミスによる誤差が生じるリスクも高くなる。その性質からマイクロペイメントには利用できない。

➤ 銀行振込による決済

銀行振込に関しては、企業は、顧客と同様の問題に直面している。なかでも手数料負担は企業の収益を圧迫する。また、顧客から送金を受ける場合においても、顧客は一定額の手数料を負担しないといけないことから、小額の振り込みは倦厭されるという問題も生じる。特に国際送金は手数料が高いうえに手続きも煩雑で、しかも着金まで数日を要するだけでなく、受け取る側にも手数料が課される。そのため、送る側にも受ける側にも負担が大きい。また、そのような理由から、小額を国際送金でやりとりすることは現実的ではない。また、個人が銀行口座を開設することが困難な国もあり、そのような国では企業は個人から銀行振込を受けることが困難である。極小単位を扱えないため、マイクロペイメントには利用できない。

➤ クレジットカードによる決済

クレジットカード(デビットカードを含む)に関しては、カード決済を希望する顧客の需要に応えることができる反面、カード会社に支払う手数料は企業収益を圧迫する。特にECではカード決済が主流であり企業の負担は大きい。また、手数料は一定比率で徴収されるため、高額な決済では高額の手数料が要求される。また、クレジットカードを保有することが困難な国もあり、カードと銀行口座を持たない人から送金を受け付けることは困難である。

➤ 電子マネーによる決済

電子マネーについては、決済時間が短いため、会計の効率を上げることが可能である。しかし、導入に当たっては各種電子マネーの運営者と契約し、事前に決済機や専用システムを用意する必要がある。また、運営者に払う手数料も高く、企業の収益を圧迫する。また、ネット上で決済できない電子マネーも多く、他国の電子マネーを網羅することは現実的ではない。

➤ 暗号資産による決済

暗号資産に関しては、企業は、顧客と同様の問題に直面している。暗号資産は価格が不安定なため、暗号資産で代金の支払いを受けている小売業者は、通常、仮想通貨交換業者を通じて法定通貨に転換しているため、その手数料は企業に負担となる。ICOの支払い手段としては暗号資産が用いられるのが主流だが、価格変動が大きいと、毎日レートを通知する手間がかかり、しかも受け取り後に当該暗号資産等の価格が下落すると、損失を被るリスクがある。企業間の決済においても、暗号資産は価格変動が著しいため、利用されることはほとんどない状態にある。

➤ xcoinが解決できること

これまで検討してきたように、各支払い手段には、それぞれ欠点があった。これらの、ほとんど全ての欠点を解消するのがxcoin currencyである。

xcoin currencyは、前項の「顧客が直面している問題」で指摘したことと同様の解決が可能である。

それ以外にも、xcoin currencyはクレジットカード、デビットカード、電子マネー等で支払いを受けた場合に、受け手である企業が負担する手数料がゼロになる。この点は、企業に極めて大きな負担軽減となる。

また、クレジットカード、デビットカード、電子マネー等では、受け手の企業が前もって契約し、端末やシステムを導入する手間が煩雑だが、xcoin currencyの場合はウェブから簡単にツールを無料で入手でき、しかもツールは多言語で提供するため、導入が簡便である。

また、他の暗号資産では、送信側と受信側の双方に価格変動のリスクがあり、ICOに当たってはレートを更新しなければいけない手間があったが、xcoin currencyを用いれば、かかるリスクと手間は解消することができる。

このようにxcoin currencyは、前に指摘した他の支払い手段で顧客が直面している問題を、ことごとく解決することができるのである。

6. xcoin と xcoin wallet の利用方法

xcoin currencyは各国の法定通貨と同価値となる暗号通貨である。他の暗号資産と同じように誰でも、瞬時に、確実に、どこにでも移転できるだけでなく、価値が安定している。そのため、xcoin currencyは、従来の通貨としての機能を持つだけでなく、従来の通貨では成し得なかった新しい機能をも持ち合わせる。したがって、その利用方法は、多岐に渡り枚挙に暇がない。利用者が新たな利用方法を考案することも歓迎したい。ここでは、代表的な利用方法をいくつか紹介する。

➤ 外貨両替

xcoin walletでは、各種xcoin同士を、銀行電信レートよりも安い手数料で両替することができる。また、世界のExchangers店舗(現状は日本10店舗、香港1店舗。今後拡大予定)で各種通貨と交換することができる。

➤ 決済手段

xcoin walletの利用者同士では、xcoinを瞬時に移転することができる。xcoin walletは無料でダウンロードできるため、誰でも直ぐに利用者となることができる。リリース直後は、利用者は少ないが、今後利用者が拡大すれば、決済手段としての利便性が拡大することになる。

事業者も一般ユーザーと同様に、いつでもxcoin walletを無料でダウンロードすることができ、何の手続きを経ることなくxcoin currencyの受け取りが可能となる。他の決済手段と異なり、手数料が生じないため、売上金の満額を得られるため、決済手段としてxcoinを導入するメリットは大きい。

➤ マイクロペイメントの決済手段

xcoin currencyは極小単位にも対応しているため、IoTの普及で拡大が予測されるマイクロペイメントにも対応できる。XUSDの最小単位は0.000000000000000001 XUSDで、他の通貨も同様である。

➤ 暗号資産の売買

リリース時点においてはxcoin currencyに対応した暗号資産取引所は少ないが、今後、対応取引所が増えれば、xcoin currencyは暗号資産を売買する人にとって利便性が向上する。まず、取引所間の移動に自国の通貨に対応するステーブルコインを利用できるため、為替リスクを負わずに済むほか、暗号資産を売却してxcoin currencyに交換することで、自国通貨において損益を確定することができる。そのうえ、ICO等の払い込みでステーブルコインを利用するのは、事業者にとっても顧客にとっても、価格変動リスクを回避するメリットがある。

➤ 国内送金・国際送金

xcoin walletを用いることで、国内国外を問わず、瞬時に、確実に、どこにでもxcoinを移転することができる。しかも、手数料は安価である(当面無料)。送金先がxcoin walletを持っていなくても、簡単に無料でダウンロードできるため、簡単に利用を開始することができる。また、世界のExchangers店舗(現状は日本10店舗、香港1店舗。今後拡大予定)で現金を受け取ることができる(日本での日本円の取扱開始は令和二年春を予定。上限1回100万円)。

また、国際送金の場合、xcoin walletを用いることで、銀行電信レートより遥かに安いレートで両替することができる。それを、世界のどの国や地域にも送金することが可能である。

➤ 価値の貯蔵段

xcoin currencyは常に該当する法定通貨に同価値で交換することができるため、価値を貯蔵する機能を持つ。しかも、xcoin currencyは156種類の通貨に対応しているため、好きな通貨を好きなだけ保管することができる。

➤ 金融資産・不動産・債権等への投資(予定)

今後、xcoin metal、xcoin commodity、xcoin stock、xcoin ETF、xcoin crypto、xcoin realestate、xcoin aircraft、xcoin patent、xcoin racing horse等を発行する予定である。それにより、xcoin walletを用いて、世界の多くの種類の金融資産、不動産、債券その他価値のあるものを、xcoinという形で自由に売買、あるいは移転することが可能となる。

➤ 配当金の受け取り(予定)

xcoin realestate、xcoin aircraft、xcoin patent、xcoin racing horse等の収益性のあるxcoinにおいては、配当が生じるが、xcoin walletを通じて当該配当を受け取ることが可能となる。

7. システム構築

システムは社内で構築することに努め、他社に外注しないことを原則とする。2019年12月にxcoin currencyの供給およびxcoin walletの配布を開始する。また同時期にウェブサイトを立ち上げる。その他、xcoin管理システム等、付帯するシステムを構築する。各種ツールはリリース後も、随時システムを改修しアップデートを実施する。

➤ xcoin

■ Ver.1 第一期リリース (2019年12月)

- ・イーサリアム・ブロックチェーンを用いたプライベート・ネットワーク
- ・xcoin currency 156種類

その後、随時、下記、各種xcoinを発行予定

xcoin metal、xcoin commodity、xcoin stock、xcoin ETF、xcoin crypto、xcoin realestate、xcoin aircraft、xcoin patent、xcoin racing horse等

➤ 国際版 xcoin wallet

各種xcoinの保管、送受信、交換等ができる専用ウォレット。アプリとして配布する。

■ iOS 版、Android 版 Ver.1 第一期リリース (2019年12月)

- ・リリース元: エクスチェンジャーズ香港(香港法人)
- ・配布範囲: 全世界
- ・取扱通貨: 各種xcoin currencyおよびETH
- ・言語: 英語
- ・搭載機能

基軸通貨設定機能(156通貨から選択可)

保管機能

送受信機能(送信手数料は当面無料)

交換機能

交換レート表示機能

アドレス帳機能

履歴表示機能

合計額表示機能

- ・取扱上限

送金は1回1,000USD相当まで、交換は1日合計14,000USD相当まで

(ただし、「閾値を超える取引」「疑わしい取引」などと見られる場合は取引を制限することがある)

(今後、KYC機能を追加したら、KYCにより上限を引き上げることが可能になる)

■ iOS 版、Android 版 Ver.2 第二期リリース (2020年5月)

(変更点のみ表示)

- ・ステータス制度導入(xcoinの保有残高に応じて優遇する制度)
- ・言語:158言語
- ・追加搭載機能
 - 言語選択機能:国際版(158言語、Googleが対応する全言語)
 - メッセージ機能
 - 手数料システム(内容については検討中)
 - KYC機能
- ・KYC済みの取扱上限
 - 送信、交換ともに上限無し

※ただし機能の一部を第三期リリースに持ち越す可能性がある

■ iOS 版、Android 版 Ver.3 第三期リリース (2020年9月)

- ・追加搭載機能
 - スワイプ機能
 - 送金予約機能
 - 日本版の交換機能でETHの交換が可能となる(ただし仮想通貨交換業の登録が条件)

■ PC 版 Ver.1 第三期リリース(2020年秋以降)

- ・リリース元:エクステンジャーズ香港(香港法人)
- ・搭載機能(iOS版、Android版 Ver.3と同じ)

➤ 日本版 xcoin wallet

■ iOS 版、Android 版 Ver.1 第一期リリース (2020年3月頃)

- ・リリース元:エクステンジャーズ(日本法人)
- ・配布範囲:日本
- ・取扱通貨:各種xcoin currencyおよびETH
- ・言語:日本語
- ・搭載機能
 - 基軸通貨設定機能(156通貨から選択可)
 - 保管機能
 - 送受信機能(送信手数料は当面無料)
 - 交換機能(但し、ETHとの交換は停止)
 - 交換レート表示機能
 - アドレス帳機能
 - 履歴表示機能
 - 合計額表示機能
- ・取扱上限
 - 送金は1回1,000USD相当まで、交換は1回14,000USD相当まで

■ iOS 版、Android 版 Ver.2 第二期リリース (2020年5月)

(変更点のみ表示)

- ・ステータス制度導入(xcoinの保有残高に応じて優遇する制度)
- ・追加搭載機能
 - メッセージ機能
 - 手数料システム(内容については検討中)
 - KYC機能
- ・KYC済みの取扱上限
 - 送金は1回100万円未満、交換は上限無し

■ PC 版 Ver.1 第二期リリース(2020年5月)

- ・リリース元: エクスチェンジャーズ(日本法人)
- ・搭載機能(iOS版、Android版 Ver.2と同じ)

■ iOS 版、Android 版 Ver.3 第三期リリース (2020年9月)

- ・追加搭載機能
 - スウィープ機能
 - 送金予約機能
 - 交換機能でETHの交換が可能となる(ただし仮想通貨交換業の登録が条件)

➤ xcoin Website

xcoinの公式ウェブサイトで、xcoinとxcoin walletに関する情報を提供するほか、xcoinを売買する。顧客は、主要法定通貨を振り込むことで156種のxcoinを購入することができ、また、156種のxcoinを送金することで主要法定通貨に交換することができる(但し、xcoinの日本円への現金化は資金移動業取得後に提供予定)。

■ Ver.1 第一期リリース (2019年11月)

- ・リリース元: エクスコイン株式会社(日本法人)

■ Ver.2 第二期リリース (2020年5月)

(変更点のみ表示)

- ・搭載機能
 - 入金申込
 - 出金申込 他

8. xcoin の法的性質

法管轄

xcoin currencyは、日本法人である株式会社エクスコインが日本の法令に基づいて日本で発行する。

同社が発行したxcoin currencyは、日本においては株式会社エクスチェンジャーズ(日本法人)、また日本以外の国においてはExchangers HK limited(香港法人)を通じて売り渡し、また買い付ける。よってxcoin currencyの売買には、その売買が行なわれる国の法令が適用される。

法律上の分類

xcoin currencyは、資金決済法が定める「自家型前払式支払手段」である。同社は通貨両替業を営んでいて、顧客は、同社から通貨を買い受ける際に代価の弁済のために用いることができる。同社は資金決済法の規定に従い、発行残高の半額を法務局に供託する。

「仮想通貨」に該当しないこと

資金決済法は「通貨建資産」を仮想通貨から除外している。xcoin currencyは同法が明記する通貨建資産に該当するため、仮想通貨には該当しない。そのため、xcoin currencyの売買には仮想通貨交換業の登録を要さない。

販売における制限

当面、日本においては、エクスチェンジャーズ社(日本法人)が店頭でxcoin currencyを販売する際には、代価の弁済として日本円のみを受け付けるものとする。同様に、香港においては、Exchangers HK社(香港法人)が店頭でxcoin currencyを販売する際には、代価の弁済として香港ドルのみを受け付けるものとする。ただし、Exchangers HK社が発行・管理する国際版ウォレット(英語)では、代価の弁済としてETHを受け付ける。

払戻の法律構成

日本においては、資金決済法により、前払式支払手段の払戻が制限されている。しかし、資金移動業として実施する場合には、資金移動のルールに基づいて払い戻すことが許容されている。したがって、エクスチェンジャーズ社(日本法人)が資金移動業の登録をした後に、日本店舗での日本円の払い出しを開始することとする(1回上限100万円)。ただし、日本店舗での外貨の払い出しは無制限で実施する。

また、香港においては、Exchangers HK社(香港法人)がMoney Service Operation (MSO)ライセンスを取得しているため、このライセンスに基づいてxcoin currencyを売買する。香港では香港ドルの払い出しに制限はない。

銀行法・出資法に抵触しないこと

日本においては、銀行法が禁止する「預金」、また出資法が禁止する「預り金」の該当性が問題となる。xcoin currencyは、資金決済法の自家型前払式支払手段であるため、預金・預り金には該当しない。また、日本店舗における日本円の払い出しについては、エクスチェンジャーズ社(日本法人)が資金移動業(現在未取得)の資格に基づいて実施するものであり、同社が払い出す資金は、顧客から「移動すべき資金」を預かったものであるから、銀行法の「預金」、出資法の「預り金」には該当しない。

また香港においては、xcoin currencyの売買はExchangers HK(香港法人)のMSOライセンスに基づいて実施されるため、香港法令が禁止する銀行業等には該当しない。また、香港店舗および国際版ウォレット(日本語を含まない)については、日本の法令は適用されない。

ステーブルコインであることとの整合性

このホワイトペーパーにおいて、xcoin currencyは「世界の法定通貨と同価値となる暗号通貨」であり、「日本発のステーブルコイン」と表現してきた。そのことと、xcoin currencyは、通貨両替業を営む株式会社エクスコインが発行する自家型前払式支払手段であり、顧客は、同社から通貨を買い受ける際に代価の弁済のために用いることができるということとの整合性について述べる。

xcoin currencyの実態は、エクスコイン社が発行する自家型前払式支払手段であり、いつでも店頭において外国通貨を買う際の支払い手段として用いることができるものである。しかし、xcoin currencyはステーブルコインとしての機能を持つ(あるいは、持つことが期待される)。

例えば、かつての金本位制における兌換券は、銀行で金と交換できる証書だったが、銀行以外の第三者への支払い手段として広く用いられるようになった。実態は「金の預かり証」だが、通常の支払い手段として機能したといえる。xcoin currencyも、実態は通貨ではないが、暗号通貨として機能するといえる。

日本においては、ステーブルコインに特化した法制度が整っていないため、既存の法概念の中でしか適法のスキームを構成することができない。そのため、ステーブルコイン発行のために、自家型前払式支払手段を採用した。今後、ステーブルコインが日本の法令において適切に位置付けられることを期待するものである。

9. マネロン・テロ資金供与対策

現金との交換

顧客との間で現物通貨と暗号通貨を交換する場合は、世界標準のマネロン・テロ資金供与対策を実施する。実施要領は次の通り。下記の取引A～Eについては、取引時確認を実施する。また、これに該当しない取引は取引時確認を要さない。

■ A 200万円相当額超の両替取引

一度の両替取引の総額が、日本円で200万円相当を超える金額の取引がこれに該当する(但し、香港店舗では12万香港ドル相当を超える金額とする。以下同じ)。

■ B 特別の注意を要する取引

疑わしい取引

特定事業者が有する一般的な知識や経験、商慣行から著しく乖離しているような取引

同種の取引の態様と著しく異なる態様で行なわれる取引

疑わしい取引に該当するとは直ちにいえなくても、その取引の態様等から類型的に疑わしい取引に該当する可能性のあるもので、業界における一般的な知識、経験、商慣行等に照らして、これから著しく乖離している取引等が含まれる。

■ C 閾値以下の複数の関連する取引の合計値が閾値を超える場合

一度の両替取引の総額が、日本円で200万円相当未満であっても、続けて別の両替をすることで、両替取引の総額が、日本円で200万円相当超となる場合がこれに該当する。

■ D ハイリスク取引

次の各号に該当する取引は「ハイリスク取引」として扱うこととする。

・犯罪収益移転防止制度の整備が不十分な国・地域に居住または所在する顧客等との取引、又は、当該国・地域に居住又は所在する者に対する財産の移転を伴う取引。特に、北朝鮮の北朝鮮ウォン、イランのイランディナールの両替に関しては、例外なくハイリスク取引として扱うこととする。また、イランの核問題に関する国連安保理決議第2231号に基づき取引が禁止されている者、北朝鮮の核関連その他の大量破壊兵器関連及び弾道ミサイル関連計画に関与する者、北朝鮮の核関連、その他の大量破壊兵器関連及び弾道ミサイル関連計画等に関与する者、タリバーン関係者、テロリスト、テロ支援団体関係者、コンゴ民主共和国に対する武器禁輸措置等に違反した者、スーダンにおけるダルフール和平阻害関与者、ソマリアに対する武器禁輸措置等に違反した者、リビアのカダフィ革命指導者及びその関係者、シリアのアル・アサド大統領及びその関係者、クリミア自治共和国及びセヴァストポリ特別市のロシア連邦への「併合」又はウクライナ東部の不安定化に直接関与していると判断される者、中央アフリカ共和国における平和等を損なう行為等に関与した者、イエメン共和国における平和等を脅かす活動に関与した者、南スーダンにおける平和等を脅かす行為等に関与した者等であると疑われる場合は、ハイリスク取引として扱うこととする。

- ・外国政府等において重要な地位を占める者(外国PEPs)およびその家族、あるいは外国PEPsとその家族が実質的支配する法人が200万円相当額超の両替をする場合
- ・取引時確認がなされた後に、その本人確認がなされた顧客等とは別の者が、取引の正当な権限者である当該顧客等を装って取引をしようとしている、あるいはそれが疑われる場合(なりすまし取引)
- ・取引時確認の際に、取引の相手方がその取引時確認に係る事項を偽っていた疑いがある場合(虚り取引)

■E ハイリスク取引が200万円相当額超となる場合

「ハイリスク取引」で、かつ一度の両替取引の総額が、日本円で200万円相当を超える金額の取引がこれに該当する。

暗号通貨同士の交換

顧客が専用ウォレットで暗号通貨同士を交換する場合は、世界標準のマネロン・テロ資金供与対策を実施する。実施要領は次の通り。

1回の交換上限を14,000USD相当までとする。ただし、取引時確認を実施したアカウントについては、この上限を撤廃する。また、上限内であっても「疑わしい取引」等の検出に努め、法令に従って監督官庁に報告する。

暗号通貨の送金

顧客が専用ウォレットで暗号通貨を送金する場合は、世界標準のマネロン・テロ資金供与対策を実施する。実施要領は次の通り。

1回の送金上限を1,000USD相当までとする。ただし、取引時確認を実施したアカウントについては、この上限を撤廃する。また、上限内であっても「疑わしい取引」等の検出に努め、法令に従って監督官庁に報告する。

アカウント停止措置

顧客が規約に違反した場合や、顧客がxcoinや専用ウォレットを犯罪に用いたと疑われる場合等に、特定のアカウントを停止し、あるいは過去の送金を無効とすることにより、犯罪資金の移転阻止を図る。

取引情報の開示

各国の裁判所の決定および、各国の捜査当局と税務当局等の要請により、顧客の取引情報等を開示することがある。

取引時確認の実施方法

■通常の取引時確認

取引類型A～Cについては通常の取引時確認を実施する。

個人については、氏名、住所、生年月日、また法人については、名称、本店または主たる事務所の所在地、事業の内容、取引担当者名、取引担当者の権限、取引担当者の氏名・住所・生年月日を下記の書面により確認する。

個人および法人の取引担当者の氏名、住所、生年月日については、

- グループⅠから証明書1点を確認する
- グループⅡから証明書2点を確認する
- グループⅡから証明書1点、グループⅢから証明書1点を確認する

(グループⅠ)

運転免許証等、身分証明書、旅券等の公的証明書で、氏名、住所、生年月日の記載および写真の掲載があるもの。

(グループⅡ)

その他公的機関が発行する証明書で、氏名、住所、生年月日の記載があるもの。

(グループⅢ)

納税証明書、公共料金の領収書

法人のその他の項目については、登録事項証明書または印鑑登録証明書から確認する。また、法人の取引担当者の権限については、委任状により確認するほか、法人を代表する権限を有する役員として登記されていることを公的証明書から確認する。

また、顧客の申告により、取引を行う目的を確認するほか、個人の場合は職業、法人の場合は事業経営の実質的支配者の氏名、住所、生年月日を確認する。

■ハイリスク取引における取引時確認

取引類型D～Eについては通常の取引時確認に加え、次の証明書を追加して確認する。個人の場合は、グループⅠ～グループⅢから証明書をもう1点追加して確認する。法人の場合は、法人の取引担当者の、グループⅠ～グループⅢから証明書をもう1点追加して確認する（日本法人については、登録事項証明書と印鑑登録証明書の両方を確認する）ほか、実質的支配者の氏名を次の書面から確認し、実質的支配者の住所と生年月日を申告により確認する。資本多数決法人では、株主名簿、有価証券報告書等、当該法人の議決権の保有状況を示す書類。資本多数決法人以外の法人では、登記事項証明書、官公庁から発行または発給された書類等で、当該法人を代表する権限を有している者を証するもの。

同時に、資産および収入の状況を次の書面により確認する。個人については、源泉徴収票、納税申告書、預貯金通帳、預金残高証明、給与明細書、納税証明書、法人については貸借対照表、損益計算書、預貯金通帳等。

10. 実行機関

法人概要



[香港法人]

Exchangers HK Limited

Shop G02, G/F, Mall Plus, 388 Hennessy Road, Wanchai, Hong Kong

CEO Takeda Tsuneyasu

| 資本金 | 100HKD
 | 創業 | 2018年7月16日
 | 従業員数 | 4名
 | 年商 | 約7,200万HKD (約10億円)
 | 資格 | Money Service Operation 第18-12-02660号

[日本法人]

株式会社エクステンジャーズ (英文社名: Exchangers Co., Ltd.)

〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-19

代表取締役社長 竹田恒泰

| 資本金 | 1億6,155万円 (払込資本金 1億7,310万)
 | 創業 | 平成28年7月1日
 | 従業員数 | 40名
 | 年商 | 約100億円



[日本法人]

株式会社エクスコイン (英文社名: xcoin co., ltd.)

〒104-0061 日本国東京都中央区銀座5-9-19

代表取締役CEO 竹田恒泰

| 資本金 | 1億6274万円 (払込資本金 3億1,548万円)
 | 創業 | 平成30年2月14日
 | 従業員数 | 6名

法人の役割分担

◆ 株式会社エクスコイン(日本法人)

- xcoinの発行
- 資産の保管
- 供託
- システム開発

◆ Exchangers HK Limited(香港法人)

- 国際版xcoin walletの提供
- xcoinの売買
- xcoinと他の暗号資産との交換

◆ 株式会社エクスチェンジャーズ(日本法人)

- 日本版xcoin walletの提供
- xcoinの売買
- xcoinと他の暗号資産との交換

11. スタッフ

▶ 株式会社エクスコイン役員・プロフィール



竹田恒泰

平成10年3月慶應義塾大学法学部法律学科卒業。作家。平成28年に株式会社エクスチェンジャーズを設立して、外貨両替業務を開始し、三年間で年商100億円の企業に育て上げた。平成30年に株式会社エクスコインを設立して、エクスコインプロジェクトの総責任者としてプロジェクトを統括してきた。



石橋正敏

平成15年3月大阪大学大学院修了、同年株式会社NTTDATAに入社。平成24年5月株式会社バロッコ代表取締役役に就任。多業界の基幹システム、業務システムの上流工程から開発のプロジェクトマネジメントを経験し、株式会社エクスチェンジャーズの外貨両替システムの構築に携わる。現在は、エクスコインプロジェクトのシステム開発のPMを担当する。



徳永煌季

平成22年早稲田大学国際教養学部卒業、同年JPモルガン証券に入社。債券及びデリバティブ商品の決済業務を担当した後、法人営業として上場金融派生商品の提供や助言業務等に従事。平成26年から地方自治体に対する不動産再生事業を手掛け、現在はエクスチェンジャーズ及びエクスコイン社の財務を統括する。



松谷良二

防衛省航空自衛隊において戦闘機操縦者として従事後、平成5年ANA(全日本空輸株式会社)に入社。運航乗務員から総合職に職種変更後、代理店政策、マイレージ・プログラムのブランディングを手掛ける。サバイバルジェット(緊急輸送)プログラムを実用化に向けて提案。ANA総研では、有人離島国境法に関する対馬市の地域活性化支援事業のプロジェクトリーダーを務める。エクスチェンジャーズ及びエクスコイン社のブランディングを担当する。



田岸三佳

Sydney Institute of Technology (TAFE NSW) にてグラフィックデザイン科を専攻。卒業後、国内外のデザインオフィスや広告代理店に勤務。平成22年にTHREE designを開業。各種印刷物・ウェブサイト・広告等、多岐にわたるジャンルのデザイン・制作に従事する。エクスコイン、エクスチェンジャーズのビジュアルデザインを担当する。



奥田雄馬

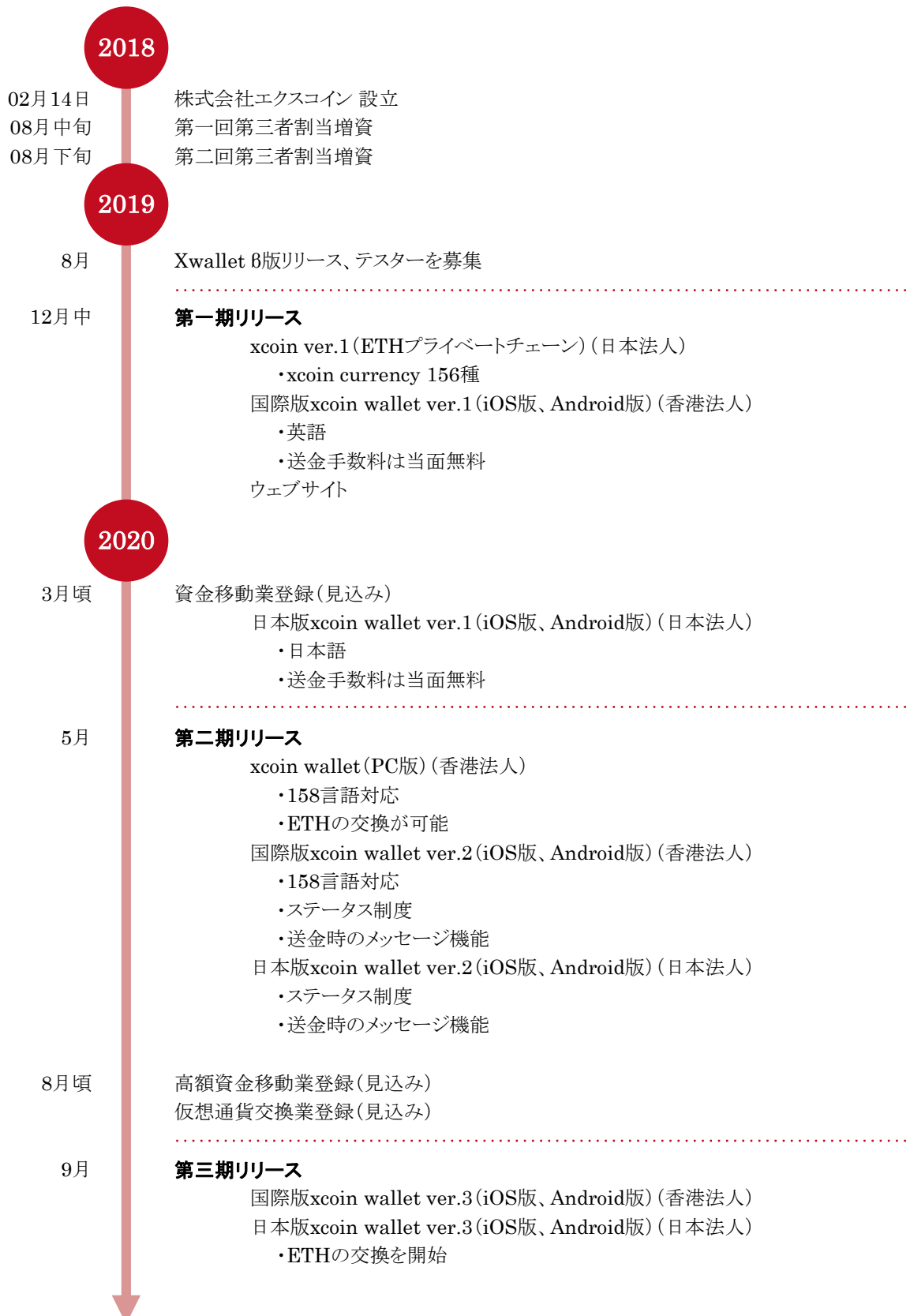
平成25年関西学院大学経済学部卒業、同年システム開発企業にSEとして入社し、IT技術やプロジェクトマネジメントを学ぶ。平成29年ブロックチェーン関連のスタートアップ企業に役員として就任。イーサリアムを用いたアプリケーションの開発、マーケティングに従事する。現在はエクスコインプロジェクトにて、先端IT技術の導入やシステム全体の設計、構築を担当する。



福田寛充

平成27年東京大学大学院薬学系研究科薬科学専攻修了、同年システム開発企業に入社。不動産管理システムなどの開発に従事。平成29年スタートアップ企業の役員に就任。イーサリアムブロックチェーンを利用したアプリケーションの開発に従事する。現在はエクスコインプロジェクトのエンジニアとしてモバイルアプリの開発などを担当する。

12. ロードマップ



13. 予算配分

第三期（2020年2月～2021年1月）

資金調達 検討中

資金用途	システム開発費	50万ドル
	広告宣伝費	10万ドル
	一般管理費	20万ドル

第四期（2021年2月～2022年1月）

資金調達 検討中

資金用途	システム開発費	100万ドル
	広告宣伝費	300万ドル
	一般管理費	30万ドル

第五期（2023年2月～2024年1月）

資金調達 検討中

資金用途	システム開発費	100万ドル
	広告宣伝費	500万ドル
	一般管理費	40万ドル